電響社グループ

万博見据えEXPO出展

AI翻訳などマルチデバイス紹介

電響社グループは、15、16日にインテックス大阪（大阪市住之江区）で開かれた「第1回 大阪・関西万博 開催支援EXPO」に出展。2025年の大阪・関西万博に出展する地方自治体やパビリオンの準備に当たり、必要となるものや使用を促したい商品をアピールした。

大阪に本社を置く電響社と、大和無線電器（京都市右京区、坂本賀津也社長）、梶原産業（大阪府東大阪市、池田克也社長）のグループ3社による共同出展。

展示ではイチオシ商品として、音声翻訳やレコーダーなどの機能を搭載するマルチデバイス「Langogo Genesis（ランゴーゴージェネシス）」を紹介した。主な機能は、人工知能（AI）音声翻訳機能と、レコーダー&文字起こし&編集だ。

AI音声翻訳機能は、人工知能で104の言語に対応する。通常は検索エンジンが一つのところ、同機器は24の翻訳エンジンと提携しているため、「話す・訳す・伝える」のそれぞれに最適な翻訳を実現。ネット環境がないオフラインの場でも使用可能で、日本語・英語・中国語・韓国語の4言語の翻訳ができる。

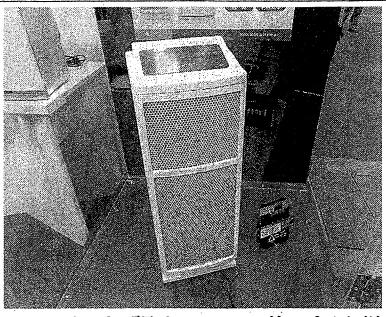
同時翻訳も可能。端末の画面上に、話した言語と翻訳された言語が表示されるため、意思疎通に齟齬（そご）がないかを確認しながらコミュニケーションを取ることができる。

現在、保育園などで、日本語が苦手な親との新たなコミュニケーション方法として訴求中。ほかにも、関西万博で多くの外国人が来日することを想定し、さまざまな場での導入を進めていく。

新型コロナ感染症による問題が続く中、屋内空間を洗浄する空間除菌清浄機「mediAir（メディエアー）」の提案も行った。同機は、米ソ冷戦時代に、細菌戦争を想定したアメリカが軍事補助金を投じて開発したもの。空気中にあるO・007ｍｍの超微粒子を、特殊処理された炭素繊維素材のVOCプレフィルターなど各種フィルターのほか、静電気作用によって粒子を統合・ろ過するハイエナジーグリッドを経て、捕捉する。

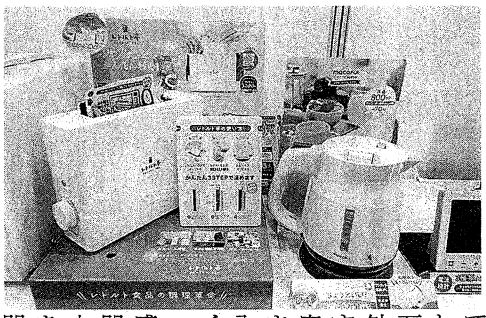
また、地震などの災害が多い日本で重要になるBCP（事業継続計画）災害対策として、大和無線オリジナル商品の、強化段ボールでできた災害対策用収納「エナジープロBOX」を出品した。収納用具に合わせてデザインをオーダーメードできる。中にポータブル蓄電池「エナジープロEX」を搭載。折り畳みソーラーパネルやスマートフォンなどの充電ができるUSB電源20ポートを完備している。

そのほか、関西万博のパビリオンで働く人向けに、休憩室で使用できる、プラごみを出さない食器やカトラリー、アロマディフューザー機能付きオゾン消臭器「OZONEOAROMA（オゾネオアロマ）」、ダイヤルを回すだけでレトルトパウチを温めることができる「レトルト亭」などを訴求した。



空間除菌清浄機「メディエアー」

音声翻訳やレコーダーなどの機能を搭載したマルチデバイス「ランゴーゴー ジェネシス」



「レトルト亭」などの展示